

2017年(平成29年)7月26日 水曜日

第22496号

(10)

昭和21年7月10日第3種郵便物認可



田辺工業

「小中から一緒にプレーしてきた仲間や高校で出会った仲間と、最後まで諦め

ることなく、笑顔で終われる夏にします」。田辺工業主将の楠本迅一朗(17)は開会式の選手宣誓で悔いのないプレーを誓った。

主将になって個性的な仲間をまとめられるか不安だったが、小学校から同じチームだった中尾大祐とムー



相手エースから左翼方向に安打を放つ楠本迅一朗

(24日、和歌山市の紀三井寺球場で)

ドメーカーの赤堀圭音の副主将2人が支えてくれた。「いい仲間と試合を楽しみたい」

3回戦は、楠本の2安打4打点の活躍などで流れを呼び、6点差を追い上げて逆転勝ち。ベスト8に進ん

のが一番うれしい」しかし、先発投手の中尾4回から継投した竹内幹がそれぞれ相手打線につかま

り、1-15で5回コールド負けとなった。「初めて対戦したが、体格があり、バットの振りも自分たちと違

最後まで笑顔で

だ。

智弁和歌山との準々決勝で3回、楠本は左翼フェンスを直撃する二塁打で出塁。その後無死一、三塁となり赤堀の併殺打の間に楠本が本塁にかえり、これがチーム唯一の得点となった。

5回、相手エースが大会初登板した。楠本は高めの直球を左翼へ安打にした。「エースから安打を打てた

だ。投手の2人もどこに投げてでも打たれると言っていた。それでも強豪校と戦えて楽しかった」と試合を振り返った。

「泣いている選手もいるけど、皆力を出し切ったので悔いは残らないと思う。最後は笑顔で終わった」

(敬称略)「おわり」

(この連載は安井夕記が担当しました)